平成19年11月11日

皆川 勝様

前略

一昨日に行われました緑土会総会の後、楽しいひと時をお作り頂きましたことにあつくお礼申し上げます。

在職時のような勝手気ままな振る舞いに随分ご当惑もおありでなかったかと思っています。久しぶりに、言いたい放題のことをしゃべり、いささか、自分ではそのおかげで若返ったような気がしましたが、相当時代遅れの話を聞かされて、お二人とも、閉口していたのではないかと思います。

校名変更は、武蔵工業大学が大きく飛躍することができる今までになかった大きなチャンスではないかと思います。法人も大学教職員も今までとは変わるのである、変える努力を始めるのであるという意識を持って前進すべきと思います。

大きな変革にブレーキをかける懸念があるものの一つは、卒業生のグループの力ではないかと懸念します。このような機会が遅れたたことのひとつは、五島慶太の遺志の名のもとにブレーキをかけ続けた美砂会の力は大きかったと思います。美砂会がもっと早く建設的に動いていたならば、東横短大は4年制女子大学、さらには、本学との総合大学へともっと早い時点で動き得たのではないかと思っています。もう一つのブレーキは法人の先見性の皆無です。電鉄の姥捨て山的な人事、そして、法人事務と武蔵工大事務の非前進的な考えもそれを助長します。

いずれにしても、あなた方の若い力と意欲がこれからの大学を支えてゆくことになると思います。お体をいとわれながらご尽力ください。

帰路には、交通費のご心配までもおかけしました。ご配慮に感謝いたします。おつりが出ましたので、少々切り捨てましたが同封しました。

草々

山脇成夫